

令和5年度 福井県立科学技術高等学校 学校評価書

| 項目                      | 具体的取組   | 成果と課題   | 改善策・向上策  |
|-------------------------|---|---|--|
| 1<br>教育課程<br>学習指導<br>研修 | 生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成する。                                   | 生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成し、計画通りに進められたと93%の教員が解答している。授業の進捗は「(ちょうど、おおむね)良かった」と答えた生徒が94%であった。また、「速く感じた」、「遅く感じた」と答えた生徒はどちらも3%である。生徒に合った学習指導計画が、適切に実行され、わかりやすい授業が行われていると考えられる。その反面、達成率が年々下がってきているところが今後の課題といえる。                     | 年々生徒への対応が難しくなっている。その結果、達成率が減少傾向にあると考えられる。教材として、図や動画を多用していくことも、一つの方法であると考えられる。また、小テストなど、生徒の理解度を確認しながら授業を進めていくことも大切である。  |
|                         | 小テストの実施、ICT教材の活用、レポート・課題などを通して生徒の知識の定着を図り、学習到達度の自己理解を深めさせる。 | レポート・課題の提出は、92%の生徒ができています。また、授業内容については、89%の生徒が、「(よく、おおむね)理解できた」と答えており、知識の定着が図られている。一方で、生徒の多様化への対応が求められてきている。今後、そのような生徒が増えていく可能性があるため、検討していく必要がある。   | 教員の「知識の定着のための小テスト・ICT教材の活用・レポート・課題」の項目に関しては、「できた、おおむねできた」という回答は90%と、前回の94%、前々回の98%から大きく後退している。生徒の多様性に対応していけるよう努力していく必要がある。   |
| 2<br>生徒指導               | 毎朝遅刻指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせる。                                 | 遅刻回数が学期に3回以下の生徒は95%であり、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。しかし、意識が低い生徒も若干おり、遅刻や基本的な生活習慣が送れていない生徒は決まった生徒の場合が多い。  | 毎朝の生徒玄関前での指導等の効果が上がっている。遅刻の多い生徒に対して保護者と連携を密にし、生徒に対しては褒めることや声掛けなどを徹底して意識づけの工夫などを継続して指導する。   |
|                         | 頭髪服装の指導を通して、校則遵守の必要性を理解させる。                                 | 生徒は98%の高い数値で、目標をクリアできている。保護者の意識も97%と高く、校則遵守にご協力いただいているが、昨年度に比べると保護者の意識が下がってきているので、周知徹底を図りたい。  | 規範意識がやや低い生徒に対しては日頃から声をかけ、生徒が自分を律する態度が身につくように粘り強く指導する。また保護者にも校内規範について周知徹底を図り、高い数値を維持したい。  |
|                         | 部活動の充実を図る。  | 部活動の加入率は全体で78%であり、昨年に比べると7%下がった。しかし、部活動参加者のうち89%の生徒は積極的に参加しており、高い割合で頑張っていることが伺える。   | 部活動の活性化をいっそう図るため、全校集会などで部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持と向上を図る。   |
| 3<br>進路指導               | 進路一斉模試、進路一斉指導等を実施し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。                      | 進路に対する意識を高める項目では、生徒は82%と目標を達成できている。しかし昨年より徐々に低下していることから今後は維持する必要がある。保護者は85%、教職員は86%の高い割合である。  | 進路一斉指導では、1年生から県内企業の現状や社会情勢を伝えたり企業見学や進路ガイダンスを積極的にを行い、もっと意識を向上させたい。採用試験において学科試験では国語と数学の試験方法やSPI試験等を採用する企業が多いことから基礎学力の大切さを指導していく。   |
|                         | 進学や就職のガイダンス、面接、作文指導等を実施し、選考試験に合格できる実力を身につけさせる。              | 97%の保護者に「子供の進路指導に(おおむね)満足している」という評価をいただき十分な成果を得ている。進路に関する態度や身なり・言葉遣い等の項目では、生徒は92%と高い数値で目標を達成できている。  | 生徒の希望する進路先に進めるよう次年度も面接練習を充実させる。生徒が進学や就職のガイダンスを通して自己理解を深め、自身の能力や適正を理解し自信をもって試験に臨めるように指導する。  |
| 4<br>保健管理               | 健康診断と事後処理を計画的に実施し、必要に応じて早期治療を働きかける。                         | 感染症予防に関して教員・保護者併せた96%が「注意を払って(おおむね)生活できた」と答えている。その一方で日常の健康管理ができたと回答した生徒は88%・保護者は87%であり、今後90%以上になるよう課題として取り組む。悩み事アンケートの記入の有無では「できた、おおむねできた」が96%であったが最終的には100%にする必要がある。   | 保護者にも協力を得て、自分の健康課題を意識させ、日常の健康管理に主体的に取り組めるように働きかける。感染症予防の取り組みも継続して行う。また、生徒の心の健康を育む取り組みでは、すべての生徒が悩み事を誰かに伝えることができるように、悩み事アンケートをはじめとしてその手段を増やし、教員間の連携を密にして生徒の声を受け止めていく体制を保護者へも発信し更に整えたい。 |
|                         | 学習環境に関心を持ち、環境の美化・整備を進める。                                    | 清掃活動への取り組みについて99%の生徒が取り組めたと答えている。今後はより自主的に取り組めるように働きかけていきたい。また、ほとんどの教員が安全で清潔な学習環境の形成に取り組む、96%の保護者が学習環境について満足している。   | 校舎内外での清掃活動に取り組む、清潔で安全な学習環境の体制が出来ている。今後も継続して生徒が自らの学習環境に関心を持ち整えられるように働きかけた。  |
| 5<br>保護者との<br>連携        | 保護者と学校との連携事業(ボランティア花壇作り、学校祭バザー販売、強歩大会湯茶サービスなど)を実施する。        | 学校・保護者ともに学校祭や強歩大会等の連携企画をコロナ禍前の形態に戻すことに前向きであり、その分保護者の負担も増えたと思われるが、昨年同様96%の「(たいへん)積極的な企画だ」との評価を維持できた。生徒からの評価も「(大変)良いことだと思う。(96%)」と昨年とほぼ同様。対して教職員は「(たいへん)積極的に活動していた。(77%)」PTAの参加状況も「(大変)良かった(98%)」と、ともに微増。保護者の活動参加が増えた結果と思われる。 | PTA総会や実習見学等についてもGoogleForm等、保護者が返答・回答しやすい案内に努め、学校とのつながりを強化する。また、ホームページの内容を充実させ、教職員・保護者が連携できる情報を発信していく。   |
|                         | 広報活動の一環として、PTA広報誌「水仙」の充実を図る。                                | 保護者に関しては、「水仙」発行によって、学校で行っている行事を「(おおむね)理解できた。(90%)」、教職員「(おおむね)適切であった(100%)」とほぼ目標は達成できていると考えられる。  | R5,6年度は県高P連の理事、R7,8年度は会長を本校が受けることになる。今後は学校行事のみならず、保護者にPTA活動自体のPRや理解を深めていただけるような紙面作りを広報委員会や役員会に提案していきたい。ただ、PTA広報委員会に今以上の負担がかからない運営に努めたい。  |
| 6<br>図書指導               | 広報活動を通して、読書に親しみをもち、読書に興味を持たせる。                              | 保護者「こどもが読書の必要性を感じるようになった(90%)」、教職員「図書室の本・雑誌・新聞を通して知識・情報を取り入れることを(おおむね)すすめた(79%)」と安定しているのに比べ、読書や図書委員会の活動に関する生徒の興味・関心は、62%で目標値70%に達していない。   | R5より「新刊図書だより」をGoogleClassroomで生徒全員に配信しており、これがR4:58%、R5:62%と微増につながったと考えられる。しかし、図書室を利用する生徒は一部に限られているので今後も広報活動に努め利用を促進する手立てを考えたい。   |
|                         | 視聴覚教材の効果的利用を図る。   | タブレットとWindows系のソフトとの連携も促進され、授業での活用範囲が広がりをみせたこともあり「(おおむね)積極的に活用した」生徒は前年度83%から94%となった。  | 今後もICT機器や視聴覚機器の活用を推進し、生徒の理解を高める授業づくりの一助としたい。そのための環境整備と情報提供に努める。  |
| 7<br>ものづくり<br>教育        | 検定や資格試験に積極的に取り組む。   | 保護者96%、教職員90%、生徒87%ですべてが資格試験や検定に積極的に取り組み、目標を達成できている。  | 今後も資格試験や検定に積極的に取り組み、学習意欲を喚起させる。また合格率及び合格者数が増えるよう継続して支援する。  |
|                         | 学科での実習で、基本的知識・技術を身につけさせ、課題研究では、校内での発表会において、成果を披露させる。        | 保護者97%、教職員90%、生徒93%ですべてが目標を達成できている。実習見学会や課題研究発表会を積極的に利用することが大切である。  | 実習では基本的知識・技術を、課題研究ではさらに高度な専門的な知識・技術を身につけさせ、ものづくりに興味関心を持たせる。  |
|                         | 地域・企業との連携や行事、各種コンテスト、コンクール、競技会等に積極的に参加させる。                  | 保護者96%、教職員86%で目標を達成できているが、生徒が78%で目標まであと少しのところとなった。さらに新たなコンテストやコンクールに積極的に参加させる工夫が必要である。  | 地域・企業との連携や行事、各種コンテスト、コンクール、競技会への参加生徒が、昨年度全体の約66%に対して、今年度78%と向上し、より積極参加させることが出来た。今後は課題研究など授業での取り組み方を検討する。   |